

AEON

株主のみなさまへ

2011

2月期 報告書

2010.2.21~2011.2.20



イオンモール株式会社

証券コード：8905



ごあいさつ



取締役会長
村上教行
Noriyuki Murakami

代表取締役社長
岡崎双一
Soichi Okazaki

株主の皆さまにおかれましては、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

去る3月11日に発生した東日本大震災で被災された株主の皆さまには、心よりのお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

イオングループは、地域社会にとって生活のインフラとしての役割を果たすべく、地域の皆さまや行政機関との情報交換を行いながら、被災からの早急な復興をめざし全力を挙げて取り組んでおります。

災害復興に向けた取り組み

東日本大震災に関する当社の状況ですが、お客さま、テナント従業員、当社従業員を含めて死者・行方不明者といった被害はありませんでした。また、ショッピングセンター（SC）においては、地震により建物・設備の一部が損傷いたしましたが、建物・立体駐車場が大きく損壊したり、また大津波による浸水といった甚大な被害を受けたSCもありませんでした。

このような状況下、迅速な対応に努め、まずは、食料品や生活必需品を扱うGMS[※]「イオン」の営業再開を最優先に進め、全てのSCにて営業を再開しました。専門店ゾーンにつきましても、イオンモール名取エアリ（宮城県）の3階部分を除いては、全てのSCが営業いたしております。なお、名取エアリの3階に

ついては、6月までに営業再開を予定しております。
また、3月11日はイオンモール甲府昭和（山梨県）のソフトオープン日でありましたが、事前の防災訓練通り、混乱なくお客さま、テナント従業員、当社従業員の避難を無事完了し、3月16日ソフトオープンのイオンモール大牟田（福岡県）と併せた新規2SCを計画通りにオープンすることができました。
一方、被災された地域の皆さまへの支援活動として

イオングループを挙げて募金活動等に取り組み「災害復興支援募金」（3月12日～3月31日）では、お客さまからお預かりした募金約11億円に当社を含めイオングループ各社からの拠出金を加えた約36億円を被災した自治体に災害復興支援金として贈呈（第一次贈呈）し、引き続き支援活動に取り組んでまいります。

※GMS：ゼネラル・マーチャンダイズ・ストアの略で、衣食住全般にわたり各種商品を幅広く品揃えした総合スーパー。

当期の業績報告

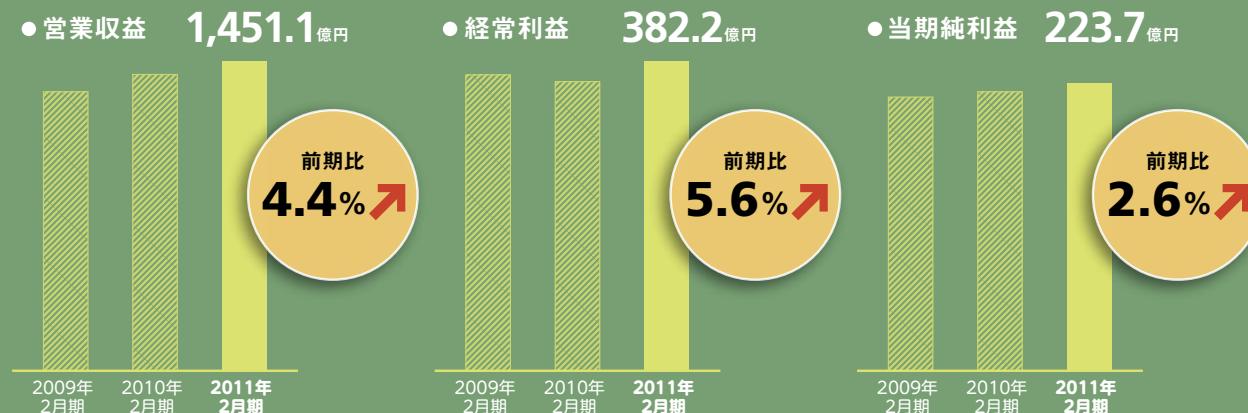
当期は（下記）連結ハイライトに示すとおり、営業収益・経常利益・当期純利益いずれも増収増益を達成し、過去最高の業績となりました。わが国経済は新興国市場の発展に支えられた輸出拡大や政府の経済政策効果により、緩やかな回復基調となりましたが、個人消費は、家計収入の伸び悩み等によ

り依然厳しい状況が続いております。
このような状況下、お客さまのニーズに対応した地域一番の競争力あるSCづくりに取り組みました。具体的には、当社SCがショッピングのみならず、エンターテインメント・コミュニティ・エコロジーといった様々な機能をあわせ持つことにより、1カ所

CONTENTS

- ごあいさつ 1
- 新規SCのご紹介 5
- 既存SCのリニューアル 7
- 2011年度の計画 9
- あなたのまちのイオンモール 10
- 連結決算サマリー 11
- 株主情報・優待情報 13
- 会社情報 14

2010年度連結決算ハイライト（2010年2月21日～2011年2月20日）



でお客様のご要望にお応えできる、すなわち、ワンストップソリューションを実現する場であるという考えを推し進めました。新規SCではプロパティ・マネジメント* (PM) 物件も含め国内3SC、中国1SCをオープンし、既存12SCのリニューアルを行うことでお客様のニーズに即した魅力あるテナント誘致を積極的に図りました。

また、2010年3月・6月・10月・12月の各ミッドシーズンにイオングループのSCに出店しているGMSを含めたテナント、約23,000店舗が参加した統一セールも実施し、新たな顧客増加にもつながりました。

これらに加え、従来から四季折々を通じて行っている祭事やイベントの効果、全天候型の建物やユニバーサルデザイン等お客様に快適に利用できる施設や設備が高い評価をいただいております。このようなお客様の視点に基づくSCづくりがディ

2012年2月期(次期)の業績見通し

当社の今後の成長戦略ですが、イオングループのディベロッパー事業の中核企業としてグループの経営資源を活用し、国内においては、新規出店も含めた安定的な拠点の拡大や、既存SCのリニューアル等さらなる事業拡大を推し進めます。一方、海外においては、中国でのモールビジネスの基盤を確立し、またアセアンでのSC展開に向けた取り組みも推し進め、新たな成長に挑戦してまいります。

これらを踏まえ、2012年2月期、国内においては、

ベロッパーの責務である「集客力」の強化にもつながり、数多くのテナント企業からも出店要望をいただいております。既存SCの専門店売上も2009年12月以降15ヶ月連続で前年を上回って推移し、新規SCオープンの寄与もあり、当社の営業収益は増収となりました。

一方、SCのオペレーションを中心としたコスト構造改革も積極的に推し進めた結果、各利益項目も増益となりました。

配当金につきましては、配当政策に基づき1株当たり10円の期末配当を実施し、第2四半期末配当金10円と合わせ、年間20円の配当とさせていただきます。

*プロパティ・マネジメント(PM):商業施設において、土地・建物を所有せず、不動産オーナーに代わってSCのコンセプト企画・専門店誘致、オープン後の運営管理等を受託するフィージビリティ。

3月に新規2SCを開設、また既存9SCのリニューアルを実施するとともにSCの運営の効率化等も推進します。中国事業につきましては、2013年2月以降に計画している新規SC開設に向けた取り組み、また北京・天津エリアに続く新たなエリアでの開発、さらにはアセアン諸国においてもSC事業の展開にむけた準備を進めてまいります。

なお、通期の連結業績見通しは、震災による影響等も鑑み、営業収益1,520億円、経常利益400億円～415億円、当期純利益215億円～224億

円を見込んでおります。

配当金につきましては、第2四半期末ならびに期

おわりに

第100期の株主総会及び総会終了後の取締役会において、事業拡大に向けた経営体制の若返りとさらなる経営基盤の強化を図るため、村上教行は取締役会長に就任するとともに、後任の代表取締役社長に岡崎双一が就任いたしました。今後とも、旧倍のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当社の本年度のスローガンは「全員が当事者! まずは実行! そして考えよ!」です。

震災直後より当社経営陣は手分けして被災地域のSCを巡回し、当社従業員、テナント従業員、そして、地域行政や商工会の方々に対話を重ねるとともに、つぶさに周辺地域の状況を確認してまいりました。その中で、当社SCが地域になくならないインフラであることを改めて痛感すると同時に、SCの営業体制を1日も早く通常に戻すことが必要であると確信し、その実現に努めてまいりました。

また、今夏の電力供給量不足に対する対策が政府を中心に検討されており、事業者・一般家庭に対して一定の節電を求める動きになっております。しかしながら、当社SCは従来から、省エネ設備を積極的に導入し節電に努めております。その代表的な設備の一つが氷蓄熱システムです。このシステムは、電力消費の少ない夜間電力を用いて冷熱を製氷して蓄え、それを溶かして昼間の空調システム等に利用するものです。現状、電力供給不足が懸念

末において、それぞれ1株当たり10円の配当金を予定しております。

されている東北電力、東京電力の地域にある当社19SCのうち9SCが当システムを導入しており、当該SCにおける昼間の空調の電気使用量の約50%削減を実施しています。また、東北・関東以外の地域でも12SCが当システムを導入しており、全社挙げて一層の節電に努めてまいります。さらにこの夏に向けた節電対策については、LED照明への切り替えの促進や施設の電力使用におけるオペレーションでの様々な対策をお客様やテナント企業のご理解を得ながら推し進めていく所存です。

東日本大震災に伴う電力体制の不透明さや消費低迷等により、先行きを見通せない状況にありますが、復興への期待とともに、お客様の消費行動も通常に戻りつつあります。当社は、地域の皆さま、行政とも連携をはかりながら、地域社会になくならないSC、すなわち当社の経営理念である「輝きのあるまちづくり」を、国内のみならず中国・アセアン諸国においても推し進めてまいります。

今後とも、一層のご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2011年5月

取締役会長

村上教行

代表取締役社長

岡崎双一



＊ **イオンモール新瑞橋** 愛知県名古屋市
2010年3月9日グランドオープン

密度の高い住宅集積と駅至近の都市型SC。その好立地を活かし、GMSのイオンやテイクアウトを中心とした「フードマーケット」から、最新ファッションや大型書店まで、「より上質なまいにちづかいのSC」としてご利用いただいております。

- 敷地面積：約53,000㎡
- 専門店数：約130店舗
- 店舗面積：約24,000㎡
- 駐車台数：約1,600台



＊ **イオンモール大和郡山** 奈良県大和郡山市
2010年3月25日グランドオープン

自動車、公共交通機関両方の利用が可能な交通アクセスに優れた郊外型SC。行政機関の誘致や、地域色を取り入れるなど地域との共生をめざしながら、立地の特性を活かし、広域からご利用いただいております。さらに、2011年には地域待望のシネマもオープン予定です。

- 敷地面積：約166,000㎡
- 専門店数：約170店舗
- 商業施設面積：約74,000㎡
- 駐車台数：約4,200台

＊ **イオンモールKYOTO** 京都府京都市
2010年6月4日グランドオープン

当社初の大都市ターミナル駅前立地型SC。地域のお客様はもちろん、沿線を利用する通勤・通学のお客様から京都を訪ねる国内外の観光客まで、さまざまな層のお客様にご利用いただいております。また、当SCはPM物件として、当社の成長戦略のひとつであるPM事業の代表店舗として、今後の成長を期待しています。

- 敷地面積：約30,100㎡
- 専門店数：約130店舗
- 総賃貸面積：約51,000㎡
- 駐車台数：約1,125台



**中国2店目の出店で
海外戦略の基盤を一層強化**

＊ **イオンモール天津 TEDA** 中国・天津市
2010年9月21日オープン

中国の国家2大開発エリアに位置づけられている天津経済技術開発区(TEDA)にオープン。当社が日本で培ったノウハウを元にオープンした「イオン北京国際商城ショッピングセンター」での経験をさらに進化させ、GMSを核に、シネマや大型家電に加え、地元有力テナントなども誘致し、経済成長を続ける中国のお客様のご期待にお応えしています。

- 敷地面積：約98,000㎡
- 専門店数：約130店舗
- 商業施設面積：約75,000㎡
- 駐車台数：約2,500台



中国でトップシェアを誇る靴ブランド「Belle」は、国内で10,000店舗以上出店している、女性に人気の有名ブランド。

急成長中の人気飲食店、創作汁ビーフンの「阿香米线」。イオン北京国際商城SCに出店後大盛況となり、今回当SCにも出店。

- 当期は、専門店との定期建物賃貸借契約の満了によるリニューアルが7SC、全面リニューアル1SC、増床リニューアル1SCなど12SCをリニューアル。さらなる新しさを提案し、地元の皆さまに引き続きご来店いただけるよう魅力を高めました。

＊ 上期

大型店跡区画のリニューアル

イオンモール太田

群馬県太田市
2010年4月23日 リニューアル・オープン
●専門店数170店舗(新規26店舗、移動・改装23店舗)

専門店との6年契約満了となるSCのリニューアル

イオンモール橿原アルル

奈良県橿原市
2010年3月12日 リニューアル・オープン
●専門店数243店舗(新規24店舗、移動・改装51店舗)

イオンモール広島府中ソレイユ

広島県安芸郡府中町
2010年4月23日 リニューアル・オープン
●専門店数191店舗(新規35店舗、移動・改装40店舗)

イオンモール京都ハナ

京都府京都市
2010年6月18日 リニューアル・オープン
●専門店数143店舗(新規32店舗、移動・改装58店舗)

新たなサービス機能の付加によるリニューアル

イオンモール草津

滋賀県草津市
2010年4月28日 スポーツ&レジャー棟に温浴施設をオープン

イオンモール東浦

愛知県知多郡東浦町
2010年3月14日 当社初となる結婚式場を導入し、ブライダル関連の専門店およびカルチャー関連の教室を展開

＊ 下期



専門家を43店舗から64店舗に拡充、内装も大幅にリニューアルしました

都市型SCとして全面リニューアル

イオンモール寝屋川グリーンシティ

大阪府寝屋川市
2010年9月23日 リニューアル・オープン

1978年3月のオープン以来、32年が経過した当SCを都市型SCとしてリニューアルし、GMSのイオンの一部を専門店ゾーンに変更しました。地下1階にフードコートを新設。地域No.1のキッズゾーンを構築するなど、オープン以来ご来店いただいている地域のお客さまに新たなショッピング環境をご提供しています。

●専門店数64店舗(新規29店舗、改装8店舗、移動20店舗)



新しく生まれ変わったイオンモール新居浜

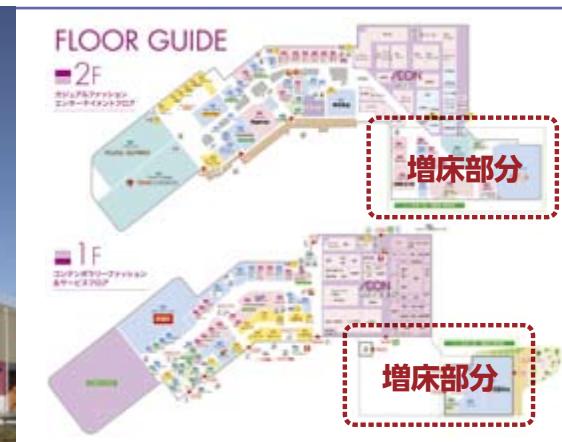
増床によるリニューアル

イオンモール新居浜

愛媛県新居浜市
2010年11月26日 増床リニューアル・オープン

2010年11月に隣接するリーガロイヤルホテルの一部敷地を借り受け、「ノースモール」を増床。キッズファッションや大型書店などを導入し、ご家族皆さまでお買い物を楽しんでいただける環境を強化しました。さらに2011年4月22日に既存棟でも大型家電などを導入し、地域No.1の「ワンストップソリューション」の施設として生まれ変わりました。

- 敷地面積：約128,000㎡(内増床敷地面積 約17,000㎡)
- 専門店数：増床棟(ノースモール)約20店舗
既存棟(サウスモール・センターモール)約100店舗
- 駐車台数：約3,400台(内増床敷地台数 約550台)



専門店との6年契約満了となるSCのリニューアル

イオンモール福岡ルクル

福岡県糟屋郡粕屋町
2010年9月17日 リニューアル・オープン
●専門店数197店舗(新規26店舗、移動・改装50店舗)

イオンモール浜松志都呂

静岡県浜松市
2010年10月22日 リニューアル・オープン
●専門店数153店舗(新規30店舗、移動・改装55店舗)

イオンモール木曾川キリオ

愛知県一宮市木曾川町
2010年11月11日より順次リニューアル・オープン

イオンモール堺北花田プラウ

大阪府堺市
2010年11月26日より順次リニューアル・オープン

経営計画に沿って着実に成長

2011年度の計画は、新規2SCを2011年3月にオープンするとともに、既存9SCをリニューアルし、着実に経営計画の達成に向けて前進しています。

★ 新規SCオープン

イオンモール甲府昭和

山梨県中巨摩郡昭和町
2011年3月17日グランドオープン



山梨県内へ初の出店

甲府市のベッドタウンとして発展する昭和町に位置し、中央自動車道甲府昭和ICから約2kmと、広い地域からの集客が期待できる当SCは、山梨県初出店となる85店舗を含む130店舗を擁し、エリア最大級のマルチエンターテインメントモールとして成長していきます。

- 敷地面積：約125,000㎡
- 専門店数：約130店舗
- 総賃貸面積：約48,000㎡
- 駐車台数：約2,500台

イオンモール大牟田

福岡県大牟田市
2011年3月18日グランドオープン



大牟田の新たなランドマークをめざす

筑後地域初となる「2核1モール型」のSCとして、九州初10店舗・筑後地域初76店舗・地元店舗55店舗を含むテナントミックスで、心地よく長時間の滞在ができる、地域と調和した「Shopping PARK」をめざしています。

- 敷地面積：約229,000㎡
- 専門店数：約140店舗
- 商業施設面積：約61,000㎡
- 駐車台数：約4,800台

★ 既存SCのリニューアル

イオンモールりんくう泉南

大阪府泉南市
2011年3月18日リニューアル・オープン

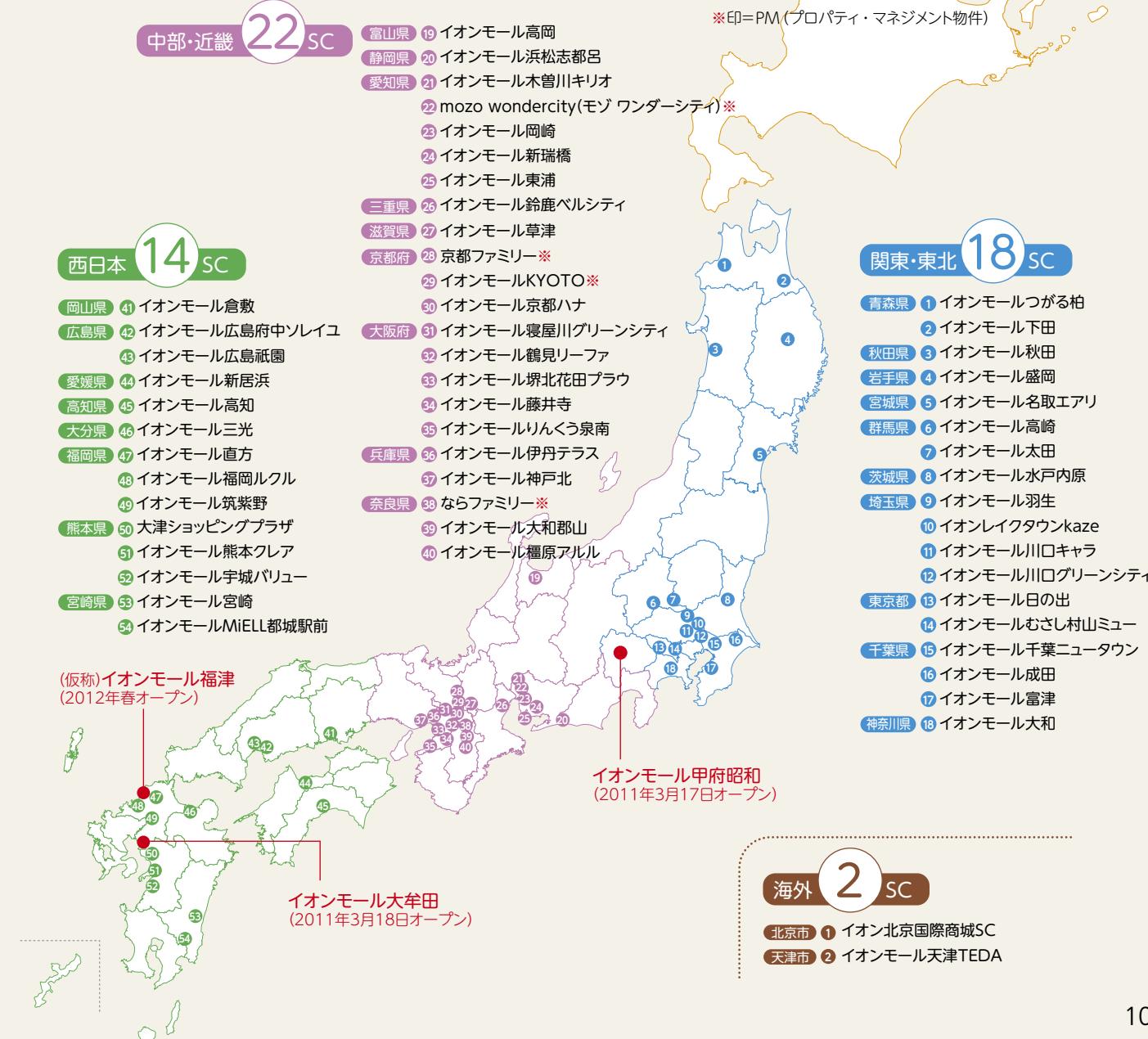
イオンモール倉敷

岡山県倉敷市
2011年冬 増床・リニューアル・オープン予定

他7SCの
リニューアルを
計画

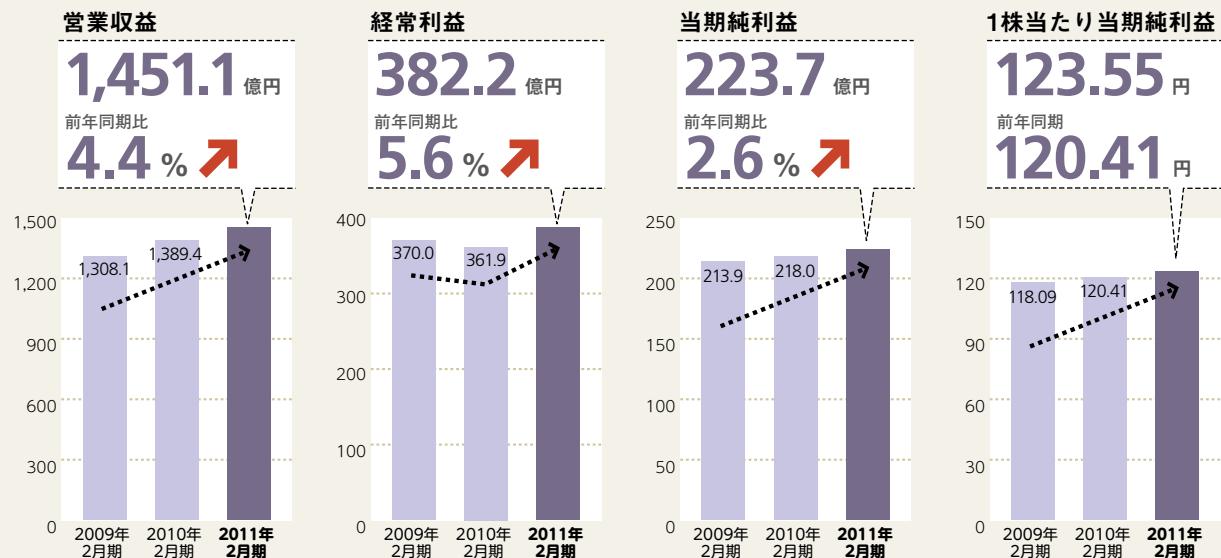
さらに成長を続け、国内56SC・中国2SCを展開

(2011年4月末現在)



経営成績

当期(2010年2月21日～2011年2月20日)の営業収益は1,451億17百万円(前期比4.4%増)となりました。国内では、新規3SC(PM受託1物件含む)を開設し、既存12SCのリニューアルを実施するとともに、中国事業では、中国2号店として2010年9月21日にイオンモール天津TEDA(天津市)を開設しました。事業規模拡大の一方、既存SCを中心としたコスト構造改革をさらに推進したことにより営業原価は954億25百万円(同4.1%増)、販売費及び一般管理費は100億39百万円(同0.1%減)となった結果、営業利益は396億51百万円(同6.6%増)となりました。経常利益は、営業外収支が△14億27百万円となった結果、382億24百万円(同5.6%増)となりました。特別損益では、特別利益48億64百万円を計上しましたが、特別損失として48億66百万円を計上した結果、特別損益収支は△1百万円となりました。以上の結果、当期純利益は、223億79百万円(同2.6%増)となり、1株当たり当期純利益は、123.55円(前期比3.14円増)となりました。



	前 期 自2009年2月21日 至2010年2月20日	当 期 自2010年2月21日 至2011年2月20日
営業収益	138,942	145,117
営業原価	91,689	95,425
営業総利益	47,253	49,691
販売費及び一般管理費	10,051	10,039
営業利益	37,201	39,651
営業外収益	2,548	1,782
営業外費用	3,554	3,210
経常利益	36,195	38,224
特別利益	3,083	4,864
特別損失	2,010	4,866
税金等調整前当期純利益	37,268	38,222
法人税、住民税及び事業税	13,393	17,584
法人税等調整額	1,989	△1,821
法人税等合計	15,383	15,763
少数株主利益	75	79
当期純利益	21,809	22,379

	前 期 2010年2月20日 現在	当 期 2011年2月20日 現在
資産の部		
流動資産	54,374	46,205
固定資産	449,172	471,012
有形固定資産	365,612	382,851
無形固定資産	2,243	2,427
投資その他の資産	81,316	85,733
資産合計	503,546	517,218
負債の部		
流動負債	100,730	114,008
固定負債	244,000	225,592
負債合計	344,730	339,600
純資産の部		
株主資本	158,039	176,802
資本金	16,666	16,670
資本剰余金	16,975	16,979
利益剰余金	124,420	143,177
自己株式	△23	△25
評価・換算差額等	162	93
その他有価証券評価差額金	196	226
為替換算調整勘定	△33	△132
新株予約権	83	116
少数株主持分	530	603
純資産合計	158,816	177,617
負債・純資産合計	503,546	517,218

	前 期 自2009年2月21日 至2010年2月20日	当 期 自2010年2月21日 至2011年2月20日
営業活動によるキャッシュ・フロー	72,001	53,007
投資活動によるキャッシュ・フロー	△75,877	△35,907
財務活動によるキャッシュ・フロー	37,687	△27,315
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△51
現金及び現金同等物の増減額	33,805	△10,266
現金及び現金同等物の期首残高	4,092	37,898
現金及び現金同等物の期末残高	37,898	27,631

財政状態(資産、負債および純資産の状況)

資産の部
当期末(2011年2月20日)の総資産は、主に新規SCの開設や既存SCのリニューアル、将来に向け増床用地を先行取得したことなどにより、5,172億18百万円(前期末比136億71百万円増)となりました。

負債の部
当期末の負債は、新規SCの開設および既存SCの増床による設備関係支払手形が増加する一方で、長期借入金が純減したことなどにより、3,396億円(同51億29百万円減)となりました。

純資産の部
当期末の純資産は、当期純利益の計上により利益剰余金が増加したことなどにより、1,776億17百万円(同188億1百万円増)となりました。

財政状態(キャッシュ・フローの状況)

営業活動によるキャッシュ・フロー
専門店売上預り金返還のずれ(前期末2010年2月20日の返還日が銀行休業日)および消費税の納付の影響を除きますと、前期を上回る営業キャッシュ・フローとなりました。
・専門店売上預り金のずれの影響 前期比△155億75百万円
・消費税納付の影響 前期比△84億50百万円

投資活動によるキャッシュ・フロー
新規SCの設備代金の支払いや将来の開発物件および増床用地の先行取得などによる支出により、359億7百万円(前期は758億77百万円の減少)の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー
フリー・キャッシュ・フローが171億円とプラスに転じ、有利子負債は前期比末△236億84百万円となりました。

以上の結果、当期末における現金及び現金同等物は、276億31百万円(前期末比102億66百万円減)となりました。

株主優待のお知らせ

対象株主さま

毎年2月20日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主さまについて、実施しています。実施対象は、1単元(100株)以上の株式を保有されている株主さまです。

優待制度

- 100株～500株未満 3,000円相当のご優待商品
- 500株～1,000株未満 5,000円相当のご優待商品
- 1,000株以上 10,000円相当のご優待商品

詳細については、2011年6月下旬に送付予定のご優待商品選択に関するご案内をご覧ください。

●ご優待商品

3つのコースからひとつを選択していただけます。

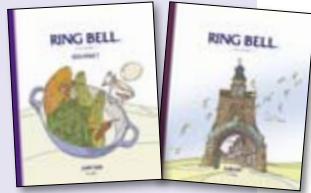
- ①「イオンギフトカード」
- ②「カタログギフト」
- ③「カーボンオフセットサービス」*

※このサービスを選択されますと、相当額の二酸化炭素排出権を一般社団法人「日本カーボンオフセット」(http://www.co-j.jp/home/)を通じて取得し、日本の償却口座に無償で移転することで、日本の京都議定書の目標達成に貢献します。

〈ご報告〉2010年2月期の実績では、19名の方よりご選択いただき、20トン分の二酸化炭素排出権を取得いたしました。



イオンギフトカード



カタログギフト

株式の状況 (2011年2月20日現在)

発行可能株式総数 320,000,000株
発行済株式の総数 181,134,407株
株主数 11,913名

所有者別株式分布状況 (2011年2月20日現在)



大株主(上位11位) (2011年2月20日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
イオン株式会社	101,057	55.79
メロンバンク エヌエーアズ エージェントフォー イッツ クライアントメロン オムニバス ユーエス ペンション	3,641	2.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,143	1.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,425	1.33
サジャツブ	2,251	1.24
ステート ストリートバンク アンド トラスト カンパニー 505225	1,849	1.02
バンク オブ ニューヨーク タツクス トライテイ ジャスデツク オムニバス ツー	1,838	1.01
東京海上日動火災保険株式会社	1,683	0.92
ザバンク オブ ニューヨーク トリーテイー ジャスデツク アカウント	1,573	0.86
みずほ信託銀行株式会社	1,439	0.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエクイティインベストメント株式会社信託口)	1,439	0.79

(注) 1. 持株数は、千株未満は切り捨てています。 2. 持株比率は、自己株式(9,470株)を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

会社概要 (2011年2月20日現在)

社名 **イオンモール株式会社**
 英文社名 **AEON MALL CO., LTD.**
 設立 1911(明治44)年11月
 資本金 166億7千万円
 本社所在地 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
 従業員数 685名

取締役・監査役 (2011年5月11日現在)

取締役会長 村上 教行	取締役 岩本 博
代表取締役社長 岡崎 双一	取締役 藤原 雄三
常務取締役 河原 健次	取締役 村井 正人
常務取締役 岩本 馨	取締役 中村 彰文
常務取締役 高橋 富士夫	取締役 梅田 義晴
常務取締役 小西 幸夫	常勤監査役 原田 健至*
取締役相談役 岡田 元也	監査役 千葉 清一*
取締役 豊島 正明	監査役 平 真美**
取締役 相馬 勝	監査役 町田 祥弘**

* 社外監査役 ** 東京証券取引所の定めに基づく独立役員

ホームページのご紹介

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。

http://www.aeonmall.comから、「投資家の皆さまへ」をクリックしてください。



イオンモールはホームページでさまざまな情報を発信しています。



株主さま、投資家の皆さまへのコミットメントを含む、社長からのご挨拶を掲載しています。

株主メモ

事業年度 2月21日から翌年の2月20日まで
 基準日 2月20日(その他必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。)
 定時株主総会 5月(ただし20日までに開催)
 単元株式数 100株
 株主名簿 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 管理人 みずほ信託銀行株式会社
 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
 お問い合わせ先 イオンモール株式会社
 管理本部 総務部
 〒261-8539 千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1
 電話 043-212-6463
 公告方法 ホームページ http://www.aeonmall.com
 電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることが出来ない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
 公告掲載 http://www.aeonmall.com

■未払配当金のお支払い、支払明細の発行

みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

■住所変更、単元未満株式の買増・買取請求、口座振替、配当金受取方法の指定等

【証券会社に口座をお持ちの株主さま】

お取引の証券会社にお問い合わせください。

【特別口座の株主さま(証券会社に口座をお持ちでない株主さま)】

みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

■お問い合わせ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

Our Vision

私たちの理念・ビジョン・事業

基本理念

お客さま第一

- 1 企画・開発・建設・リーシング・運営までの一貫したモールビジネスにおいての顧客は「地域のお客さま」です。
- 2 テナントスタッフを始め、清掃・警備やメンテナンスなどモール(SC)にかかわるすべてのパートナーとともに、「お客さま第一」の価値観を共有することが当社とパートナーの発展につながります。
- 3 お客さまの期待に応え、更なる期待を得、またそれに応えるという価値の連鎖により、永続的な発展があります。

経営理念

イオンモールは、「輝きのあるまちづくり」を目指します。

私たちは、パートナーとともに、輝きのあるまちを創造し、
地域で生活する人々の、より彩りあるくらしの実現に貢献し続けます。

「輝きのあるまち」とは

私たちが創る「驚き、感動、喜び」のある生活拠点によって魅力溢れる新しい生活があるまちのことを指します。

「パートナー」とは

地域社会、行政、NPO、テナント企業、協力企業、地権者、投資家など、まちづくりにかかわるすべての人を指します。

コーポレートメッセージ



ひとも、まちも、きらきら。



木を植えています

私たちはイオンです



このリーフレットは環境対応大豆油使用インキを使用しています。



古紙ハルバ配合率100%再生紙を使用